千載
玉葉
百番歌合
完

昭和五十四年三月廿七日
飯島書店にて、估価千
二百円　村井順

百番和哥吟會

題

春二十首　夏十五首
秋二十首　冬十五首
恋十五首　雜十五首

作者

左方　櫛千蔭
右方　源正岑

判者

藤原某

石瀬文庫
村井文庫

第一番　春風来海上

左

明渡る春の志るへの時つかせ浪路よりこそ先かよひけれ

右　勝

かしまのやこ散さそひし浦風もそ紀春風とあしまゆかなり

右哥詞すこしあらゝしくこそ

二番　子日松

左

こゆきをし小雅の此人の姫小松引もこゝろめしたなり

右　勝

今日してひける二葉の小松まも兼てそ千世の色はこもれる

左詞のしらくきこえ侍り右哥つゝけからやうある感侍れハ勝とす

三番　霞隔遠樹

左

遠方のつゝみの柳まよふれはおのゝの煙にけふりかもしらん

右　勝

ほのかにもみゆるはかりを朝霞立かくしけり辛崎の松

左哥の詞うるはしけれや右風情おかしけれハ勝とす

四番　鶯千春友

左

[illegible]

右　勝

[illegible]の春[illegible]つゝ[illegible]りの世[illegible]ふゝも[illegible]へよ友[illegible]雪の[illegible]

右[illegible]

五番　名所紅葉

左

初[illegible]ふ[illegible]つゝ君を[illegible]ふ[illegible]友の[illegible]ひ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]

右　勝

この春も[illegible]の[illegible]ぬ[illegible]竹川の[illegible]世の古[illegible]ふ[illegible]

右[illegible]すゝ[illegible]ゝけ[illegible]て[illegible]待り

六番　[illegible]梅

左

[illegible]つゝ谷の[illegible]梅の[illegible]

右　勝

[illegible]を[illegible]今[illegible]ん梅の花[illegible]白[illegible]の水

右[illegible]風[illegible]

七番　山家皆梅

左　勝

[illegible]て[illegible]と見[illegible]山里を[illegible]める梅の[illegible]

右

山里八梅の林とあり[illegible]花や[illegible]

左山里をつゝめる梅威をつくす人丸勝ち

八番　梅紅白

左

梅の花あさ〳〵とやうしん白めもとゝ成も白人て衰と思ふ

右　勝

咲そ〳〵りこそめ白梅梅の色紅そうれ梅　白ひ

たすら〳〵つくろへるさまや右ことわりつよく侍れ

勝ち

九番　柳　赤春名

左

日よそへてのとゝろ〳〵春の色を門の柳の姿よそ〳〵る

右　勝

浅ゝとり末のめ春風はよりそ〳〵る春柳の糸

たいとちら〳〵あるや右ことわりつよく思ふ人も有やう

あれハ勝ち

十番　行路春草

左

くれなゐの裾引ものゝ春ゝとりの春草

右　勝

道すゝ〳〵るのあさ〳〵くれなゐもまるゝ草の遍うねハ

たいとちら〳〵あ〳〵右ことわりつよく威侍り

十一番　山春月

左

[illegible]

右　務

[illegible]

右風情[illegible]

十二番　月前海[illegible]

左　持

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

十三番　呼子鳥

左

花ちるかゝる山林[illegible]

右　務

[illegible]

左[illegible]

[illegible]

十四番　月前打花

左

[illegible]

今日もみうらくらべつるおりんよの春をもわが花の一枝

右 勝

山さくらかぜにふかれてよるさへも色をもわかつるかな

左 負 春の夢ねむりてかぜをうしなふ

くれぬまくり

十五番　花添山氣色

左 持

二神のさきの榊咲そめて山もいまをとくもある山

右

よし丸山榊さかりよ来よくらく雲もうらくもくもりて

ひつひいとうりく勝劣なしく

十六番　都　花

左

宮人のさきのあと咲白ふじの春はもそこともある

右 勝

神とも都のさくら品さくもうつれぬ高人もあり

左 いとく紅ゐめくり右こそ捨ぬるこしれい

勝とた

十七番　花慰老

左

咲ぬるようるのこそうぶひこのむ一ぬ春のんこる

右 勝

ふるのるこ蛇こそすれたらくのるへこのの小榊こ八

右哥すこし感まさるるもや

十八番　落花

左持

をしとおもふいろはいかなる山さくらちるこそむのさろうえんれ

右

むさしぶ風つよし山さくらあくまでうんとさらすものを

いつのひ勝劣あるべし

十九番　聖徳

左

白妙の神ふりたてるのもの芝生の草つむこ

六

右勝

くもの狩衣の面あとのれぬハ聖うせや破をふるさまにうん

左哥今すこし詮有しくや右哥聖の辞を吹さまさ

れて直あるれハ勝よし

二十番　名所紅葉

左

神なびの峯の山吹咲ようにもむろのあ〳〵ふるもあ勝ん

右　持

ふそるる宿の川面を流りまて小〳〵ふるさろる山ふるの花

たきせる詮前　右とかりてよく感も侍れハ勝よし

二十一番　竹亭夜来

左 持

きゝしにも春もやしらぬ呉竹の陰には夜のこゑのみしまれ

右

今日よりは秋もの竹の下風もことさらかよへ夜はまたれけり

たれとなくおもしろけれや中待らん

二十二番　深山新樹

左

家古人まてもをしねはみなさへ山さくらそおのかままなる

右 勝

雲とみし桜も今は深山木のひとつみとりの葉かけしけりて

右哥ことわりさしきこゆれは勝とす

二十三番　山家卯花

左

ふるさとて匂ふし雪のおかのくまのちれさかるその山さと

右 勝

ほとゝきし春は第なる山里にみるのきれのおもしろきられ

左哥語かはゝりや右哥語すこしあるしこと侍れは

勝とす

二十四番　門辺時鳥

左 持

角田川つみなさく舟まてはなくしまくなくなくまなん

右

[illegible]

二十五番　急早苗

左　持

[illegible]

右

[illegible]

二十六番　[illegible]

左

[illegible]

右　勝

[illegible]

二十七番　水と夜月

左

[illegible]

右　勝

[illegible]

[illegible]

二十八番　[illegible]

左

[illegible]

右　勝

[illegible]

二十九番　呉射欲鴨

左

[illegible]

右　勝

[illegible]

三十番　澤蘭

左

[illegible]

右　勝

[illegible]

三十一番　山家の新

左

[illegible]

右勝

[illegible]

左[illegible]

三十二番　軍兵衛

左

[illegible]

右勝

[illegible]

左[illegible]

十

三十三番　山分立

左

[illegible]

右勝

[illegible]

[illegible]

三十四番　南田川納涼

左

[illegible]

右勝

[illegible]

たさせる詞ゝやゝ右おのゝ〳〵おのよまゝうの情々
この勝ひ侍れハ勝とん

三十五番　川友禁

左

うきゝゝも時〳〵よをやゝうるん面ゝの川よゝそ上ゝ恋ハ

右　持

御祓する川を隔〳〵河社名ゝをうけて秋やもゝとん
あゝゝ河のゝそゝも歳ゝ上侍ゝれゝ川　秋の風情ゝの
つゝのゝすゝゝく詠ゝもゝる〳〵く侍れハ勝とん

三十六番　立　秋

左　持

秋も紅きのふのまゝ秋つゝの神よおゝ事けさのゝそつゝを

右

呉服の一枚ゝくれハ朝風ゝ露ゝ人〳〵ゝ秋ハまたゝゝ
ゝゝゝもゝゝけ新ゝゝひゝく勝ゝ勝ゝる人〳〵

三十七番　七夕橋

左

ゝ事ゝ者ゝの面ゝゝゝ立〳〵ゝゝはゝゝるゝのゝふゝ末ゝを橋ゝ渡〳〵秋ゝん

右　勝

天の河ゝゝゝのゝゝゝのゝ別ゝゝゝけゝゝ侍〳〵ゝゝ末ゝのは〳〵
右音盛すゝ〳〵侍ゝゝ侍ゝ人〳〵

三十八番　名所萩

左

[illegible]

右　勝

[illegible]

[illegible]

三十九番　古今露

左

[illegible]

右　勝

[illegible]

右の[illegible]

四十番　松虫

左　持

[illegible]

右

[illegible]

左　持

四十一番　鹿　文学花

左　持

秋のくこすめるうしろと萩そなく花のゆ〜まよふまちうつる

右

三ゝかけも霧ふる萩や夕ぐれの山ぢの秋霧のもれ

たゝかふも感あるて勝劣あるべし

四十二番　山家萩

左

ちりつもる秋の山の萩のうへ色あるれもやうよくひともこのれ

右　勝

かくれ家とうるむしと山もうつるものの形よりのゆゝと萩をあくなる

たゝのゐすゝきさまゝぬ色に右風雅うるく述懐の

感ふうゝれハ勝うた

四十三番　八月十五夜月

左

なべて世のくもりなくもまむ月も雲ちあるうふまをいるる

右　勝

さやゝ〜ゝ雲ふるの月をうるあ人ハ天のかゝ天あ〜〜とをおもふ

たさてをゝ〜〜けあ〜〜右すゝるうる風情あるゝ〜〜れ

て勝うた

四十四番　池月

左

たゝそゝて光ちあるうるとうるものとうる池のおもうれ

右　勝

いつのるのよるかの浦のよるなみもはるかにしめとすめる月のれ
右方負情あるべしこれハ勝とす

四十五番　浦　月

左

絶はてしの百敷つまもとてのれまれ潮もの満てる月

右　勝

仲つねを恋あまと呼て慈の潮くまなきそ哀れ秋のよの月
まくれなゐの月もいと勝りたく侍るものをこ慈のうしの
隈なき月の初てよ姿なるをハ勝とひとしく

四十六番　名所　月

左

大原やおやんの〜ふるのもて秋ハ月こそすきまるらるれ

右　勝

ふるあ〜んいてとうれ秋ハ月　稚暁まて山そあまのよ月
たもおう〜よものの〜右暁まての方ものを月ハ四方に
う晴うまく〜ふるひく一さハ感あまさハ勝とす

四十七番　馬上吟　月

左　持

秋の〜よ尾もあ〜ふの頭とめく乗り人のあをを望れ

右

おく〜もあまき秋の花暁まる頭ふ〜ゆ〜そ乗人のこ心

秋の月をとゝめあゝ[illegible]いと風情あゝ[illegible]石地蔵あと
の[illegible]も神[illegible]人とさ人宮[illegible]るおくれ[illegible]詮も侍[illegible]称ハ
特[illegible]や侍[illegible]ん

四十八番　川　霧

左　持

[illegible]の川[illegible]霧の[illegible]川門霧[illegible]ぬ[illegible]ゆをと呼[illegible]ハ[illegible]て

右

物[illegible]山[illegible]日の[illegible]くもりてぬまてく[illegible]の川霧[illegible]の[illegible]

左[illegible]も[illegible]霧の[illegible]詮[illegible]ぬ[illegible]や

四十九番　南[illegible]持衣

左　持

ひ[illegible]ん[illegible]ゆ[illegible]の[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]玉川の里

右

[illegible]川[illegible]ハ[illegible]を[illegible]ゆ[illegible]を[illegible]ん[illegible]

左[illegible]も[illegible]の[illegible]や[illegible]侍[illegible]ん

五十番　伊勢迎鯉

左

[illegible]の山[illegible]の[illegible]や[illegible]人の[illegible]世[illegible]ん[illegible]

右　務

[illegible]わ[illegible]と[illegible]一[illegible]の花[illegible]久[illegible]

左[illegible]人の[illegible]ひと[illegible]ハ[illegible]ん[illegible]

情感ぜられ侍れば勝とした

五十一番　月照紅葉

左

月の紅葉にてらすまつの色くるるとこそ見るやまもとの色

右　勝

何ゝ宴の公てしるる人のこゝろのたのえハ月もとりあつ

たハ紅葉をとりあつて一首をつくれり右ハおのつから哀さ

まさるなのえも紅葉ふの色もさやかなれハ勝とした

五十二番　遠紅葉

左

とゝ紅葉ふるやこの御の寄のふるさとをとゝ紅葉のもとに

右　勝

ちるとせハ色のよくをよく侍るく行ゝ時のかゝよのきぬるの山

左させる詠なれ共左りくおゝ上詠と侍れハ勝とした

五十三番　秋水

左

名風ふまる法のさゝ波ふるとも秋のゝ色ハあり〳〵

右　勝

水の門の川をひちゝ〳〵とそ秋のゝ水とのれ

右ず風情まるたまりてきこし侍る

五十四番　秋雜

左

時しらぬ峯かいまもさふ苔のうへる色は秋はなしけり

右　持

とはゝ思ふ学繁の山は山まつも秋こそ忘れぬるかな

とはゝ山の秋ぞまれぬ風の音をあくまで聞れば物とは

五十五番　撞木遣秋

左　持

うしかる〳〵秋ぞのゝ入おの一しゐとよ秋そくれ申く

右

とはましぬ秋ぞよあるをとゝぬつよそおくるもさへうしめ

ぞのつゆ物ぞかなしき

五十六番　山家初冬

左

秋くれ〳〵三山の里そあはれなるおちそのこゑ時雨ふりつゝ

右　勝

冬ゝまのあと詫ぬれも山里ハあ〳〵しの風ぞ吹ゝ

右ゝ詠風雅すゝ〳〵まさりて侍るべし

五十七番　月前雨

左

あくるゝ夜の月のひかりやとり〳〵に紅葉ちりつゝ

右勝

[illegible]

[illegible]

五十八番　月前蔦紅葉

左

[illegible]

右勝

[illegible]

五十九番　嵐吹宮草

左

[illegible]

右勝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六十番　湖氷

左持

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

六十一番　冬曉月

左　[illegible]

大御門ひろく敷の[illegible]て御もしの[illegible]

右

[illegible]

左おなじ[illegible]

六十二番　夜の鳥

左

[illegible]

右勝

[illegible]

左の[illegible]

勝と[illegible]

六十三番　水鳥

左

山川は[illegible]

右勝

[illegible]

左[illegible]

右一ふ[illegible]

勝と[illegible]

六十四番　馬と雪

左　持

花ゝ[illegible]ハ踏もまゝや白ハまし雪ふる日ハ[illegible]のくれ弱

右

[illegible]

左一[illegible]あり右実情[illegible]

六十五番　社頭雪

左

[illegible]

右　勝

[illegible]山[illegible]

二十

[illegible]

六十六番　遠村雪

左

[illegible]

右　勝

[illegible]

右一[illegible]ハ勝[illegible]

六十七番　朝鶯持

左

[illegible]

右勝

[illegible]

左[illegible]の詠[illegible]や　右一首の詠[illegible]あれハ勝[illegible]

六十八番　炭竈雪

左持

炭[illegible]や雪の下折中[illegible]

右

雪ふりて[illegible]

左[illegible]

六十九番　猛火似春

[illegible]

左

小枝[illegible]

右勝

[illegible]

左[illegible]

[illegible]

七十番　冬中歳暮

左持

あとさ[illegible]

右

春[illegible]

このつゆ猶雪なるべし

七十一番　不開門寺

左

清見寺あらの雪をもるさねかうしゝみくの色をうゝまし

右　勝

ゆきのよをうしおもとひゝうゑ妹名門をひらくゝゝゝ八人もそ色

右方一作あるゝゝけ是ハ勝とし

七十二番　稀逢寺

左

偽もあく月をむよもの星あれや稀あう中ゝ色ひゝ事ん

右　勝

あふゝゝのゝゝ月をよこのゝむゝ色花月とむゝゝゝゝ色ゝ事ん

左方ゝゝゝゝすゝゝおぼゝゝゝ月色ゝ右歌ゝゝれ色ハ勝とし

七十三番　係紀変絹寺

左

ゝゝゝひもあゝんとゝひゝくゝゝゝまかゝくゝのゝ紀のゝきゝゝゝする

右　勝

そ秋ハと契ゝし妹ゝ花ゝゝのゝゝゝゝ色ゝのゝそゝゝ色

左方下のゝゝゝゝゝゝゝゝ右ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ花れハ

勝とし

七十四番　備三秋寺

左

[illegible]

右 勝

[illegible]

右一番[illegible]れハ勝よし

七十五番　一本根絵　[illegible]

左 持

[illegible]

右

[illegible]

左[illegible]

七十六番　毎秋他行　[illegible]

左

[illegible]

右 勝

[illegible]

[illegible]

七十七番　深居　[illegible]

左

[illegible]

右 勝

[illegible]

左家房の詠ふくよあるうを侍らん右ことやうなく
侍れハ勝とす

七十八番　老後神恵

左

今ハとて詠もすさまれと行末のもんさしめやを

右　勝

夏のうゝ立るもやさしうまを尾の男もなきぬ人をと神く

左うゝ鶯恵をのくるるのを恵の夜室うるゝや右詠うゝ

この歌をハ勝とす

七十九番　寄風恵

左

春とゝもおもハぬ風のうえうゝ絶ようえあんし霧のをのを

右　勝

いつのよやん庭のうゝひ路あゝ絶くやとのとゝ松秋うをそ吹

左人のうゝうゝもいハゝれくうゝみハ風の詠ゝとうゝや

右ゝ威侍れハ勝とす

八十番　寄雪恵

左

ゝのゝゝもんハをゝれ白雪のよゝのんのあとゝとわを

右　勝

ものあつるんハれ神よふる雪の降くもつゝる雪ひゝを

たさせる作者　右歳も作れい勝とた

八十一番　　寄雲恋

左

住人の袖の色〻雲の秋くれなゐ染てつる

右　勝

朝ぼらけ雲とおく雲おなじもあくるを待やたさせる歳ぬくや右白とた歳作れい勝とた

八十二番　　寄河恋

左

つるぬれい川とたぬうらうらぬ神よ波いのくらん

右　勝

味とせの山をゆめ〻はれ川おうれく恋くすむらも乱

左させる歳ぬくや右味資の中一恋くれくるとあうつよく

歳時作れい勝とた

八十三番　　寄虫恋

左

秋の夫尾花のもとのほるぬうめあやう恋　土雲を結ぶけ

右　勝

雲なる〻雲間を今い秋きこの鳴てそこうある恋のうられい

左させる作者もあ〻ぬや右ぬうるけるとのく歳も作れい

勝とた

八十四番　寿衣恵

左

秋つもの名さへまくしてあるまうすくしに衣うはぎのをかも

右　持

ふるさとの衣かうつをのうへ衣あまをしむらそこ恵しうらの

左方　翁　おうくたきくれられと恵の情いさせる感

あくや右方　翁つのひとひ絵とひ風新うるいくく感

情持れ持ち

八十五番　寄瞳恵

左

瞳つまくとちあんとしもおとうをかとうまをのいくくうたきね

右　持

嫌とうとの中一の胜吉のうねのしあ多いくれしおううまをいし

左方　多の多のあくしたや右方一枝おうくれい持ち

八十六番　岩上雲深

左

恵のぼる雲ちうとうとまるたるを八谷根のうこのきれまくあを

右　持

わくのある山八おくしちの峯さうを赤とそ見てしねやこのくれつく

左　御ふ和ふさうわくくやの絵いくくたや右方と

いりつまく持れい持ち

八十七番　山家朔

左　持

[illegible]

右

[illegible]

八十八番　橋

左

[illegible]

右　持

[illegible]

左　[illegible]

右　持

[illegible]

八十九番　布引滝

左

[illegible]

右　持

[illegible]

九十番　海語

左

[illegible]

時なるこゑもそこはかとなく山のそもゝ波ぶき重なる山くちのれ

右　勝

なとゝやのうらなみかすみわたるけしき仲秋の月はいまこそ

九月の風情も侍るべいとちかくかつ

海上の情も感侍れば勝と

九十一番　庵

左　持

かり初のうやう野ともあれあまをいとうとくかくう

右

おもてしもすあはすむ世とおもへともあまうたのまとをの

たちもよ絵なる月　やゝ侍るべし

九十二番　山家紅葉

左

うはの木ゝ世ゝおもへて葉のまゝらそ到てとひる

右　勝

世をのがれくる年もへてうゝ山家の物のあはれをさるのこゑ

たゞすゝ　おのめくゝちに右とめうゝた風情も

侍れば勝とて

九十三番　岩折松

九

源ときとうゝそこゝ好る大男の衣のきをうの松のむゝ立

右　勝

いろくさのうやうひのあるん日のすとんとんそ一末のか[illegible]
左方 神[illegible]
杉を覚[illegible]る後一きハ感伏れハ勝とす

九十四番　水口島

左 持

[illegible]

右

[illegible]

九十五番　鐘

左 持

[illegible]

右

[illegible]

九十六番　薬

左

[illegible]

右 勝

[illegible]

右方優遇の情いと感ぜハ勝とす

九十七番　意

左

雪をしのぐの夫風にまかせておのゝ名ゝ柳もんあり〳〵

右　勝

みのけ〳〵をかけハ清よむもんそ人のあるゝあり〳〵

たさせる論あるゝや右とあるんよく世のさゝ〳〵もあるゝ

感情付れハまさ〳〵よ勝とん

九十八番　述懐

左

まつをする時よあひてゝ世ゝあ月をあくうれ多世へおま

右　勝

人ハひと者ハ人ゝの身とおりゝ人ゝもかゝとあれめゝゝ丈世あり〳〵

たゝ治国のゝ〳〵よ情をハいまれれと感する而ハあり

右ゝさ世の情をのゝく〳〵喪あゝ感も付れハ勝とん

九十九番　懐舊

左

いゝゝ〳〵ゝゝる月ハをゝゝうして昔のゝほくなゝ俺〳〵丈

右　勝

去めれハ身の四ゝんゝよゝ多くゝゝゝてゝゝくゝむゝ〳〵のゝと思ハれゝよ〳〵

たも感をゝハ付〳〵物と打養者ゝ感ハ右ゝ場ゝて付る

百番　寄ゝ民祝

飯島書店
名古屋 記念橋東詰
電話(中)2766

左

清くて紙の事は田井をとうしてあらためて仰ん

右務

国々にて戸さしぬ御代よりあり民のかせぎハ世ゝ張ひ之ゝ

左ハ一ツ〳〵作るものゝ〳〵右ハ事にてゆう〳〵〳〵

姿ハ〳〵〳〵て歳も作れハ務とす